

イチゴおよびイチジク用の宙づり型出荷容器

食品流通部

1 背景、目的

イチゴ「あまおう」やイチジク「とよみつひめ」は、京浜地域や海外への販路拡大が図られていますが、いずれの果実も果肉が柔らかいため、従来の出荷容器では硬いプラスチックとの接触や果実同士のスレにより傷が発生しやすく、長距離輸送において品質低下を招くことがあります。

そこで、長距離輸送による販路拡大を進めるため、輸送中に傷が付きにくいイチゴ「あまおう」とイチジク「とよみつひめ」の出荷容器を開発しました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 新容器は、果実の形に成型した柔軟なポリエチレンフィルムを、プラスチックまたは段ボールで支える構造で、果実が宙づり状態となるため振動を軽減する効果があります（図1、図2）。
- 2) イチゴ用新容器は、プラスチックの柱構造により強度が確保されるため、積み重ねた状態での輸送・販売が可能です（図1左、図2中央）。
- 3) 新容器は従来容器に比べ、輸送中の傷の発生をイチゴでは約3分の1、イチジクでは約5分の1に軽減できます（図3）。

3 主要なデータなど

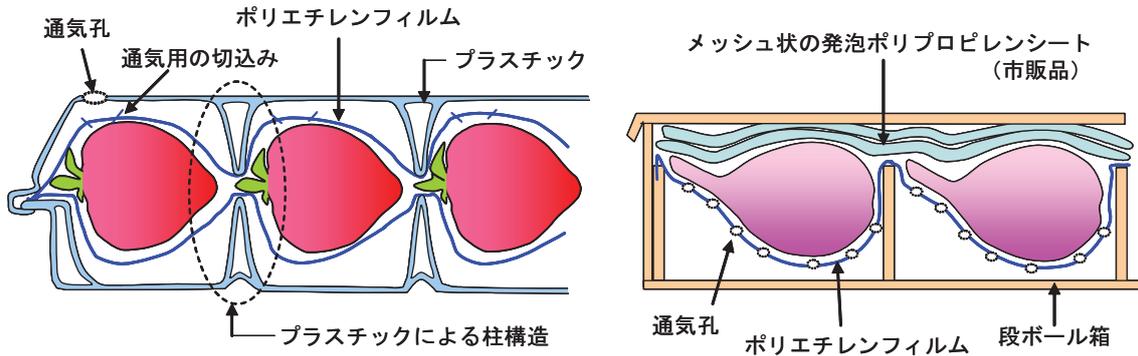


図1 開発した新容器の構造

注) 左：イチゴ用、右：イチジク用



図2 開発した新容器の外観（平成20～21年度）

- 注) 1. 左・中央：イチゴ用、右：イチジク用
 2. イチゴ用容器サイズ：W180×H55×D240mm、内容量約430g用
 3. イチジク用容器サイズ：W245×H80×D335mm、内容量約1.2kg用

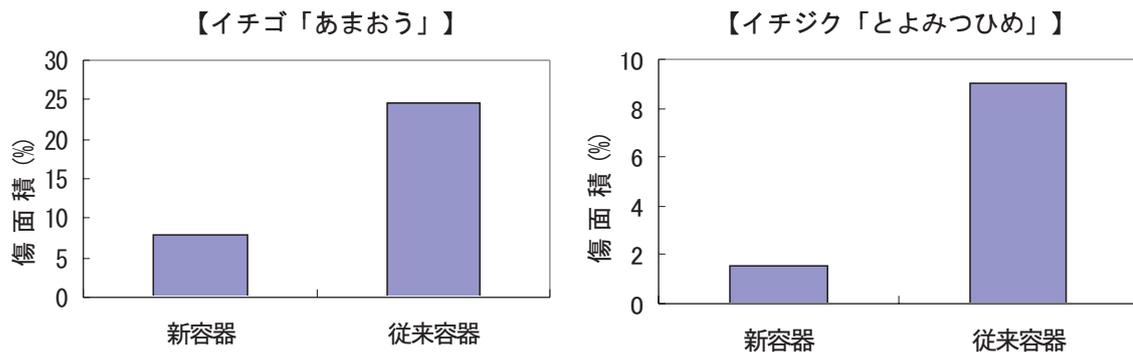


図3 新容器の傷面積発生率（平成20～21年度）

注) 従来容器：イチゴはホールトレー、イチジクはプラスチックパック